

小千谷市
子ども・子育て支援事業に関する
ニーズ調査結果報告書

平成 31（2019）年 3 月
新潟県 小千谷市

目 次

第1章 調査実施の概要	3
1 調査の目的	3
2 調査の設計	3
3 調査票の配布と回収状況	4
4 報告書の見方について	4
(1) 年齢・学年の定義	4
(2) 電算処理の注意点	4
(3) グラフの見方について	5
5 調査対象者の属性・家族状況	5
(1) 就学前児童の属性	5
(2) 小学生の属性	6
(3) 調査回答者の状況と配偶者の有無	6
(4) 家族構成と居住地域の状況	7
第2章 子育て家庭を取り巻く環境	11
1 家族の状況と子育ての環境について	11
(1) 主な保育者の状況	11
(2) 小千谷市定住の意向	11
(3) 祖父母の居住状況と子育てへの支援	12
(4) 育児の担い手	14
2 保育者の就労状況	15
(1) 母親の就労状況	15
(2) 父親の就労状況	20
第3章 子育て支援サービスの現状と今後の利用希望	27
1 平日の定期的な教育・保育事業の現状と今後の利用希望	27
(1) 平日の定期的な教育・保育事業	27
(2) 平日の定期的な教育・保育事業に対する希望等	31
2 休日の定期的な教育・保育事業の利用希望	32
(1) 土曜日の定期的な教育・保育事業の利用希望	32
(2) 日曜の定期的な教育・保育事業の利用希望	33
(3) 祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望	34

3	地域の子育て支援事業の現状と今後の利用希望	35
	(1) 地域の子育て支援事業の利用状況	35
	(2) 今後の利用意向	36
4	病児・病後児保育事業の潜在ニーズ	38
	(1) 病気やケガで教育・保育事業が利用できない時の対処について	38
	(2) 病児・病後児保育施設等の利用希望	42
5	不定期な一時保育等の利用について	43
	(1) 不定期に利用している教育・保育事業の状況	43
	(2) 子どもを泊まりがけで預けた状況	48
	(3) ファミリー・サポート・センターの利用状況（小学生）	51
6	放課後の過ごし方について	54
	(1) 就学への心配ごと	54
	(2) 平日の放課後の過ごし方について	55
7	学童保育（学童クラブ）の利用について	59
	(1) 現在の利用状況	59
	(2) 今後の利用希望	61
第4章	育児休業制度の利用状況等	73
1	育児と仕事の両立支援制度について	73
	(1) 育児休業制度の取得状況	73
	(2) 職場復帰の状況	74
2	子育てに対するイメージや不安・悩み	75
3	子育て全般について	80

第1章

調査実施の概要

第1章 調査実施の概要

1 調査の目的

本市では「子ども・子育て支援法」に基づき、全ての子どもや子育て家庭が健やかに成長することができる社会の実現を目指して、平成27年3月に「小千谷市子ども・子育て支援事業計画」を策定し、様々な子育て支援事業に取り組んでいますが、本計画が平成27年度から31年度までの5か年計画であることから、2020年度を始期とする第2期計画の策定を予定しています。

第2期計画策定にあたり、必要な情報を得るため、子育て家庭ニーズの動向分析等を行い、市の現状と今後の子ども・子育て支援における課題を整理することを目的とした調査を実施しました。

2 調査の設計

調査票は調査対象者別に作成しており、各調査の件数および調査期間・方法は、以下のとおりです。

■ 調査票の種類と調査対象者及び調査の実施方法

①調査票「子ども・子育て支援に関するニーズ調査(就学前児童用)」	
調査対象者	平成30年12月1日現在、小千谷市に在住の就学前児童を持つ保護者
調査票配布数	1,100人
調査期間	平成31年1月9日～平成31年1月25日
調査方法	認定こども園・認可保育園等を利用している就園児の保護者には、施設を通して調査票を配布し、回答は施設への提出または郵送により回収しました。また、未就園児の保護者には、郵送により調査票を配布・回収しました。
②調査票「子ども・子育て支援に関するニーズ調査(小学生用)」	
調査対象者	平成30年12月1日現在、小千谷市に在住の小学生を持つ保護者
調査票配布数	900人
調査期間	平成31年1月9日～平成31年1月25日
調査方法	市立小学校に通学している小学生の保護者には、小学校を通して調査票を配布し、回答は学校への提出または郵送により回収しました。また、市立小学校に通学していない小学生の保護者には、郵送により調査票を配布・回収しました。

3 調査票の配布と回収状況

調査によるそれぞれの配布・回収状況は、以下のとおりです。

■ 調査票の配布・回収状況

調査対象者	配布数(人)	回収数(人)	回収率(%)
就学前児童の保護者	1,100	860	78.2
小学生の保護者	900	735	81.7

4 報告書の見方について

(1) 年齢・学年の定義

就学前児童・小学生の年齢定義は、アンケート調査において誕生日の年月を回答しているため、下表による年齢区分により集計を行いました。

年齢区分	該当する生年月	年齢区分	該当する生年月
0歳児	平成29年4月以降	6歳児	平成23年4月～平成24年3月
1歳児	平成28年4月～平成29年3月	7歳児	平成22年4月～平成23年3月
2歳児	平成27年4月～平成28年3月	8歳児	平成21年4月～平成22年3月
3歳児	平成26年4月～平成27年3月	9歳児	平成20年4月～平成21年3月
4歳児	平成25年4月～平成26年3月	10歳児	平成19年4月～平成20年3月
5歳児	平成24年4月～平成25年3月	11歳児	平成18年4月～平成19年3月

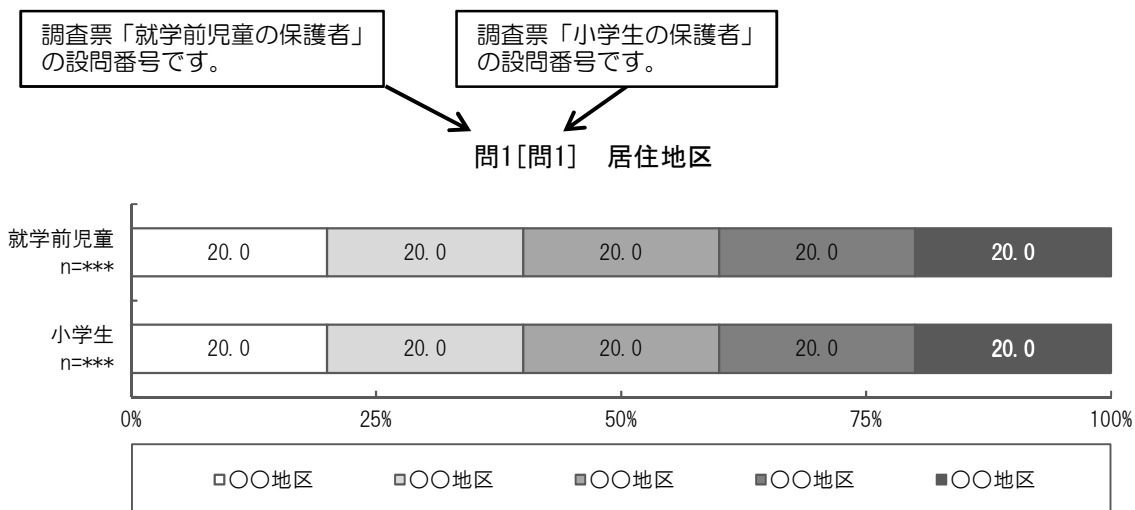
(注) 調査期間【平成30年度】における年齢定義

(2) 電算処理の注意点

調査結果の数値については小数点第2位以下を四捨五入しているため、内訳を合計しても100%に合致しない場合があります。また、複数回答が可能な設問では、各項目の割合の合計が100%を超える場合があります。

なお、基数となる実数は「n」として掲載し、各グラフや表の比率は「n」を母数とした割合を示しています。

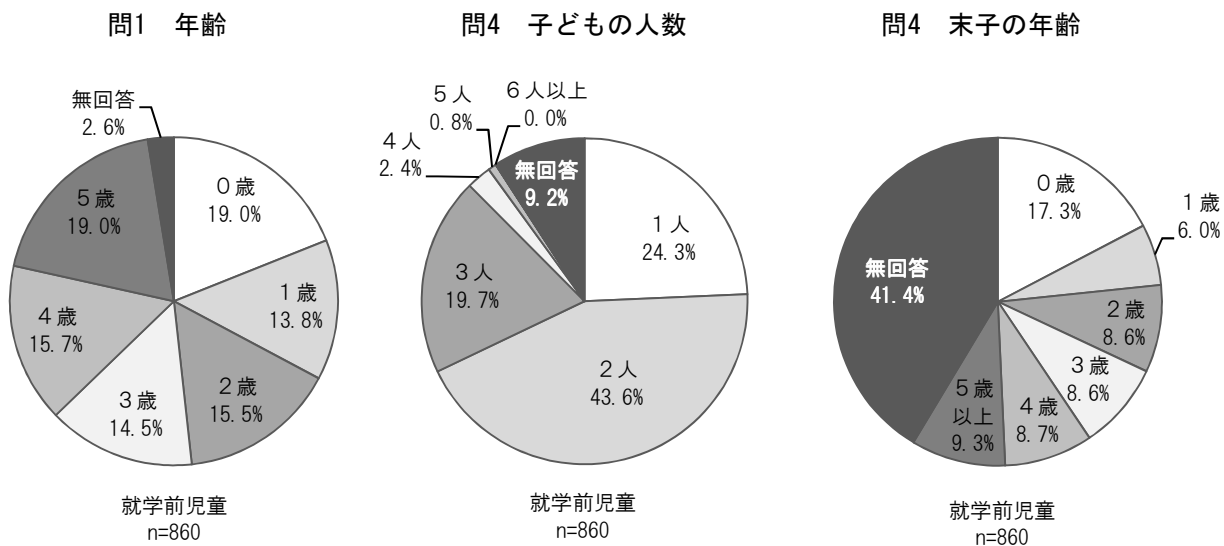
(3) グラフの見方について



5 調査対象者の属性・家族状況

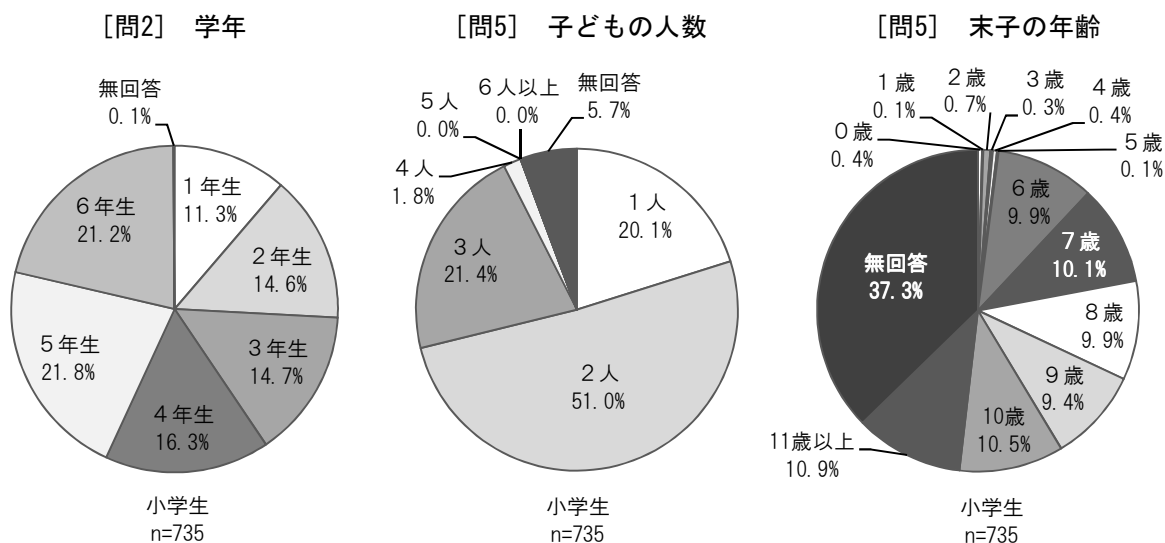
(1) 就学前児童の属性

○回答された860人の就学前児童の属性は、以下のとおりです。



(2) 小学生の属性

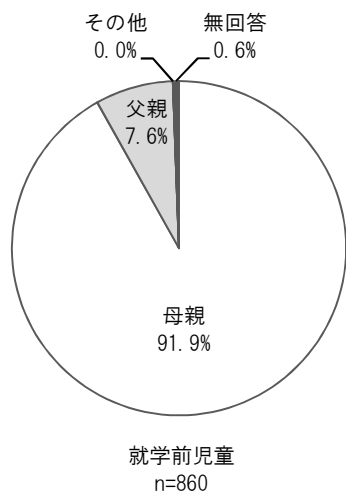
○回答された735人の小学生の属性は、以下のとおりです。



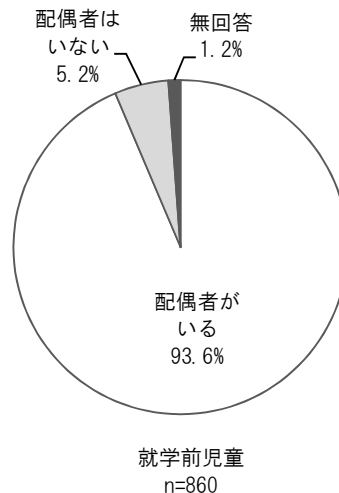
(3) 調査回答者の状況と配偶者の有無

○この調査の回答者は、以下のとおりです。

問2 調査回答者（就学前児童）

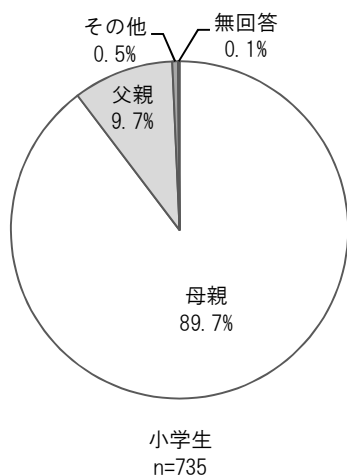


問3 配偶者の有無（就学前児童）

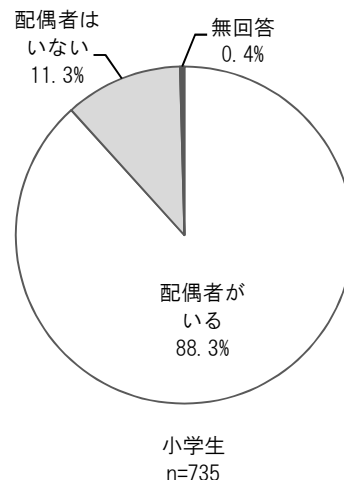


○この調査の回答者は、以下のとおりです。

[問3] 調査回答者（小学生）



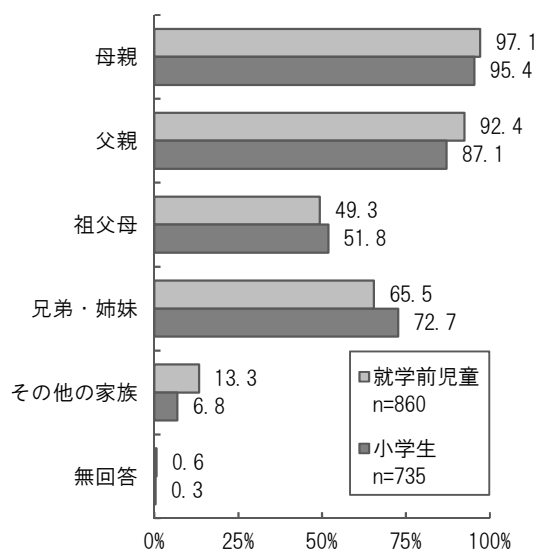
[問4] 配偶者の有無（小学生）



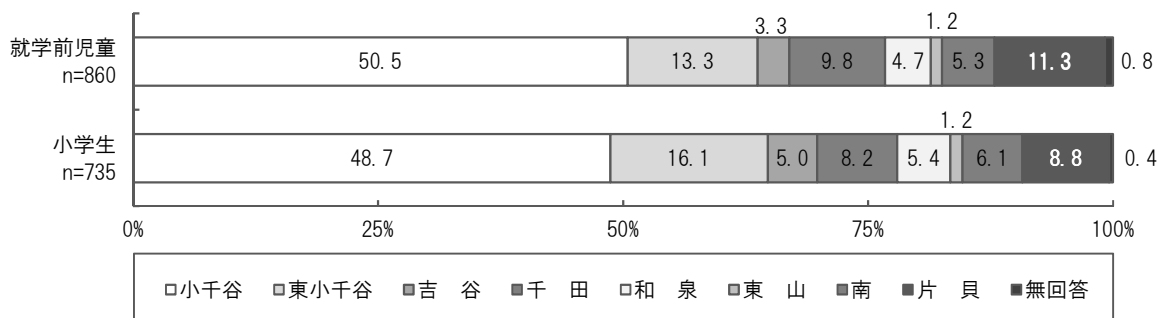
(4) 家族構成と居住地域の状況

○調査対象者別の回答者の家族構成と居住地区は、以下のとおりです。

問5[問6] 家族構成



問7[問8] 居住する小学校区



第2章

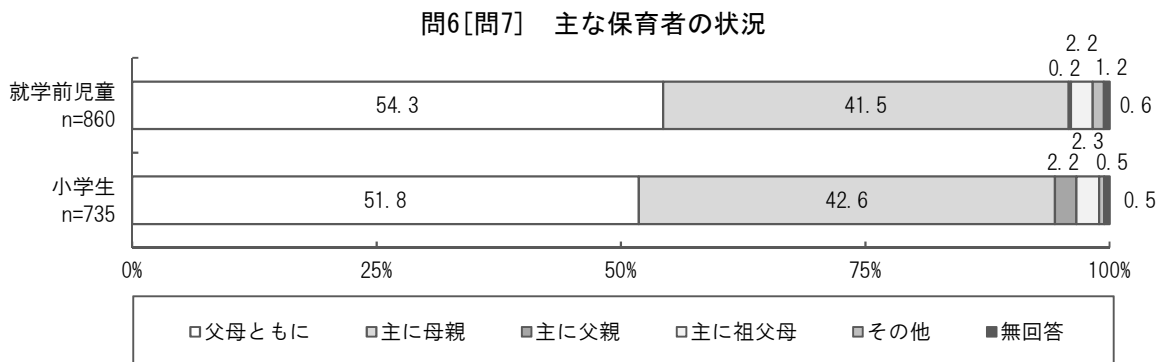
子育て家庭を取り巻く環境

第2章 子育て家庭を取り巻く環境

1 家族の状況と子育ての環境について

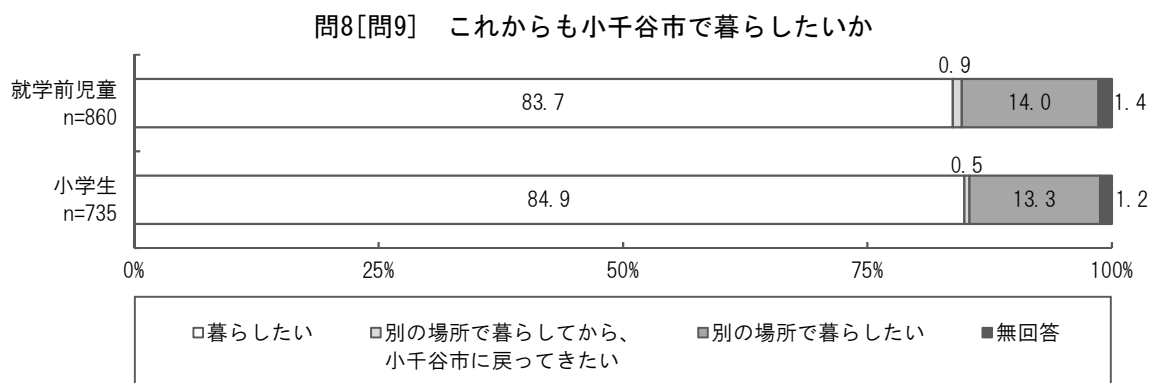
(1) 主な保育者の状況

○主な保育者の状況をみると、就学前児童・小学生いずれも「父母ともに」「主に母親」で9割以上を占めています。



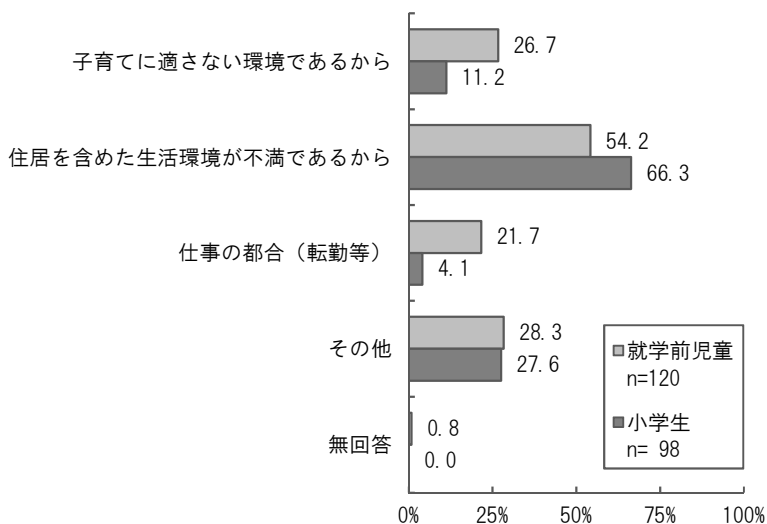
(2) 小千谷市定住の意向

○これからも小千谷市で暮らしたいかをみると、就学前児童・小学生いずれも「暮らしたい」(83.7%・84.9%)が8割台となっています。一方で、「別の場所で暮らしたい」(14.0%・13.3%)は1割台となっています。



○別の場所で暮らしたい理由をみると、就学前児童・小学生いずれも「住居を含めた生活環境が不満であるから」(54.2%・66.3%)が最も高く、次いで「子育てに適さない環境であるから」(26.7%・11.2%)となっています。

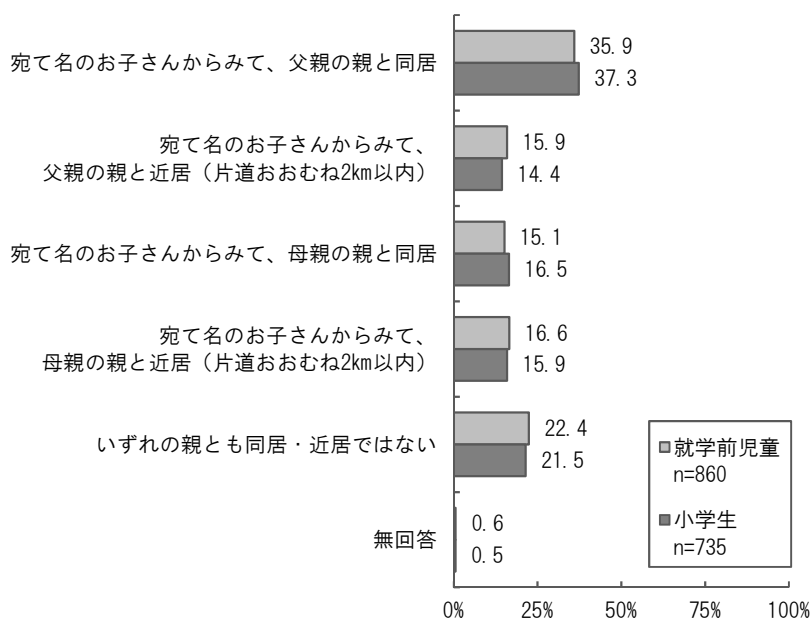
問8-2[問9-1] 別の場所で暮らしたい理由



(3) 祖父母の居住状況と子育てへの支援

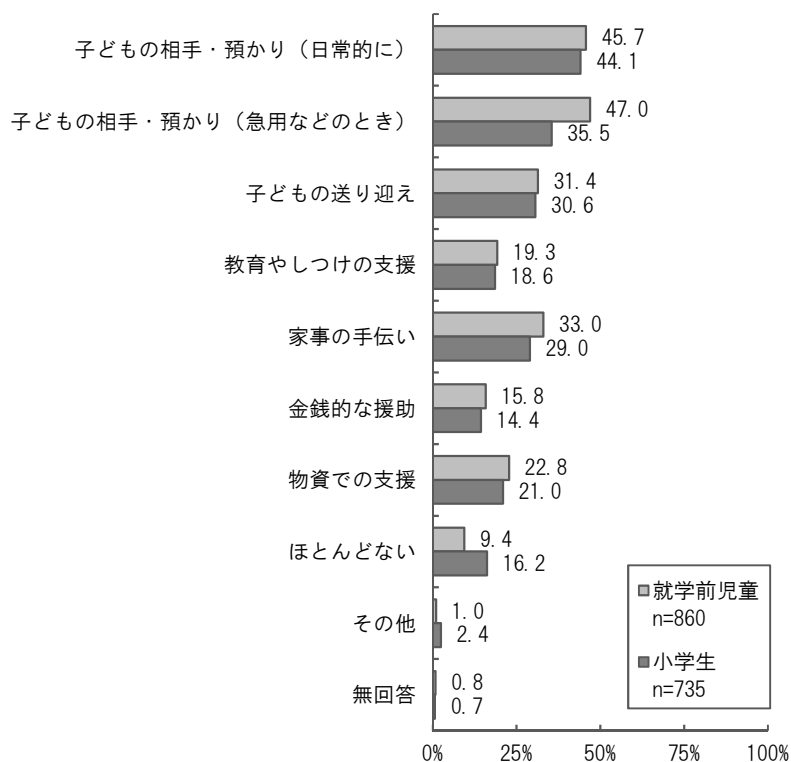
○祖父母との同居・近居の状況をみると、就学前児童・小学生いずれも「宛て名のお子さんからみて、父親の親と同居」(35.9%・37.3%)が最も高く、次いで「いずれの親とも同居・近居ではない」(22.4%・21.5%)となっていますが、約8割の方が祖父母と同居・近居である状況です。

問9[問10] 祖父母との同居・近居状況



○祖父母から受けている子育てに関する支援をみると、就学前児童は「子どもの相手・預かり（急用などのとき）」(47.0%)、「子どもの相手・預かり（日常的に）」(45.7%)、「家事の手伝い」(33.0%)の順となり、小学生では「子どもの相手・預かり（日常的に）」(44.1%)、「子どもの相手・預かり（急用などのとき）」(35.5%)、「子どもの送り迎え」(30.6%)の順となっています。

問10[問11] 祖父母から受けている子育てに関する支援

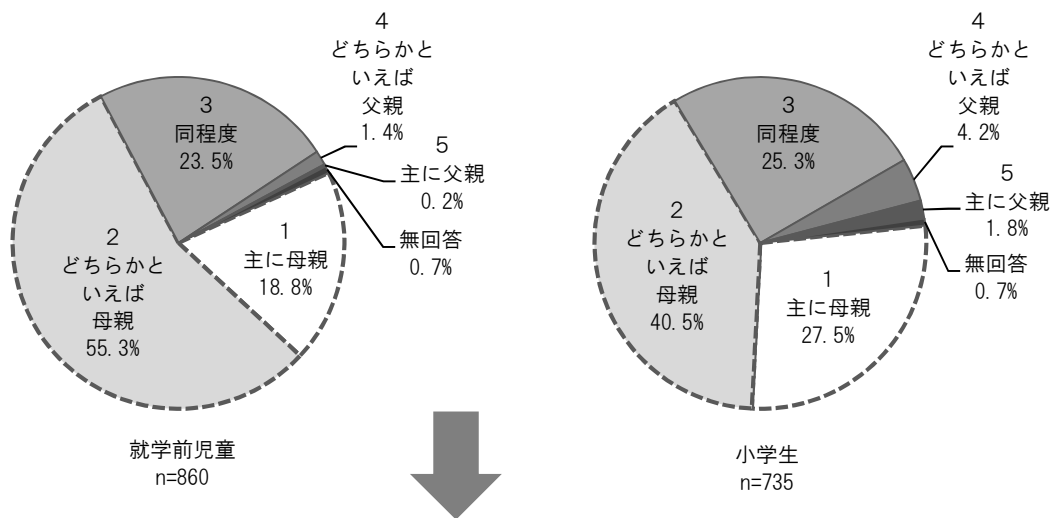


(4) 育児の担い手

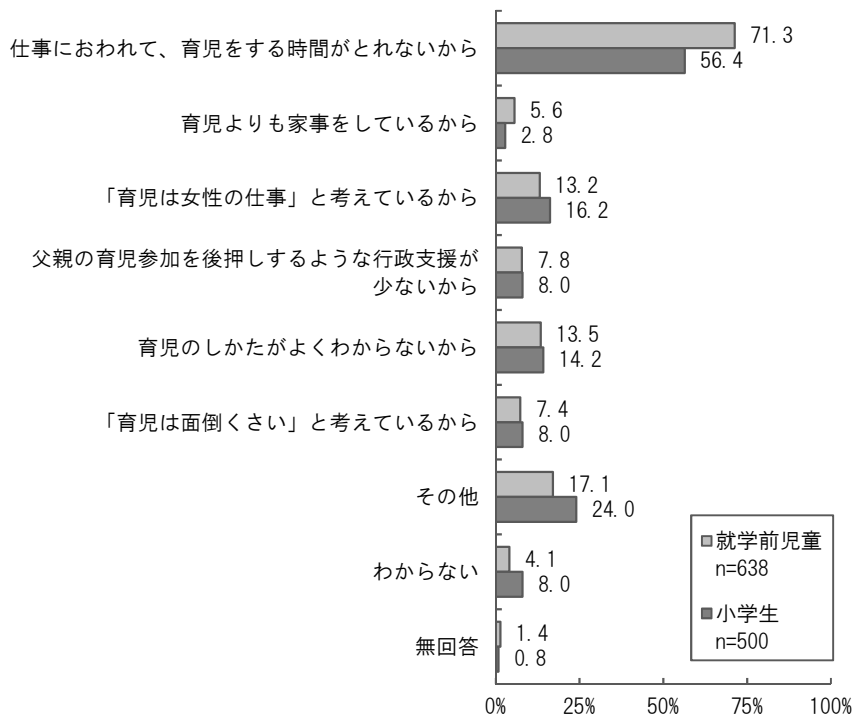
○育児について、母親と父親が担う割合をみると、「母親（1主に母親+2やや母親）」（就学前児童74.1%・小学生68.0%）、「父親（1主に父親+2やや父親）」（就学前児童1.6%・小学生6.0%）となり、母親の負担の割合が高くなっています。

○父親が育児を担う割合が低い理由について、就学前児童・小学生ともに『仕事におわれて、育児をする時間がとれないから』（71.3%・56.4%）が最も高く、次いで、就学前児童は『育児のしかたがよくわからないから』（13.5%）、小学生は『育児は女性の仕事』と考えているから』（16.2%）となっています。

問11[問12] 育児を担う割合



問11-1[問12-1] 父親が育児を担う割合が低い理由



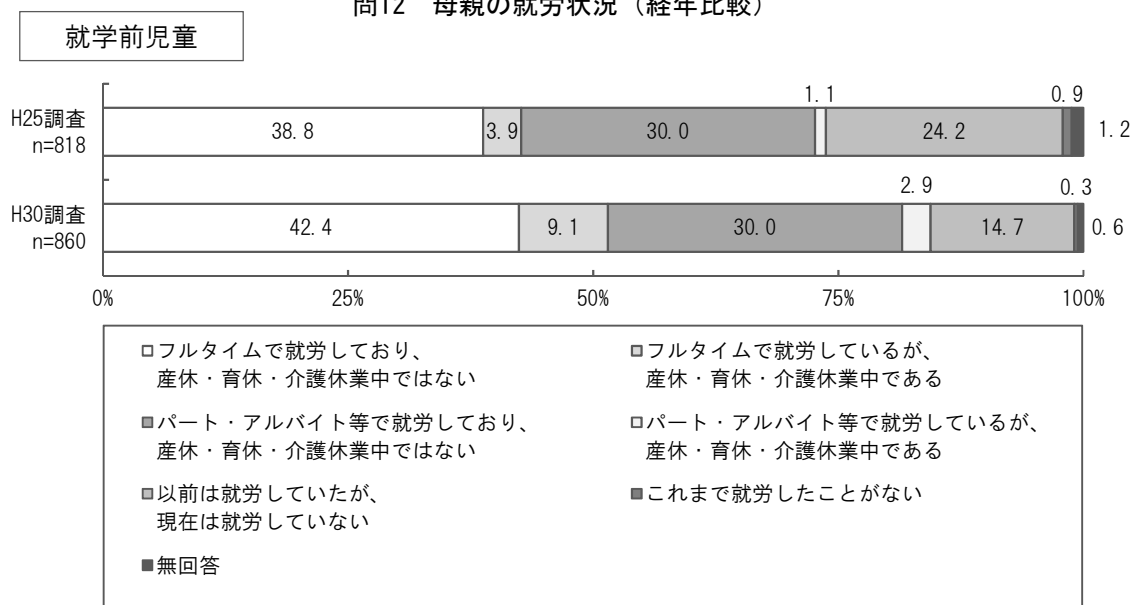
2 保育者の就労状況

(1) 母親の就労状況

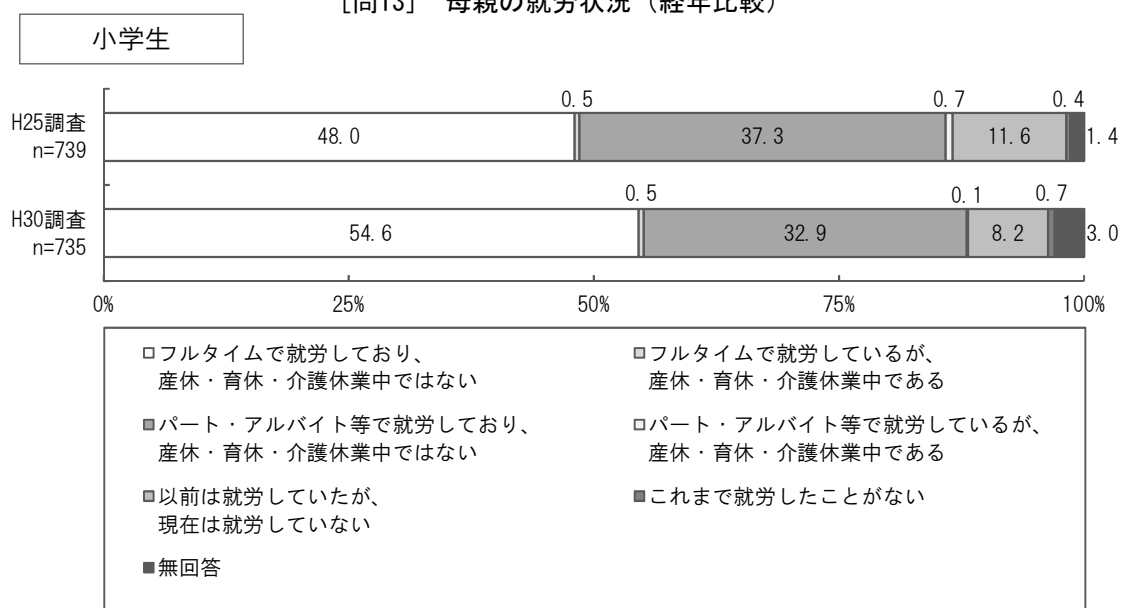
○母親の就労状況をみると、「フルタイムで就労している」「パート・アルバイト等で就労している」を合わせた割合は、就学前児童で84.4%、小学生で88.1%となっています。そのうち産休・育休・介護休業を取得中の方は、就学前児童で12.0%、小学生では0.6%となっています。

○前回調査と比較すると、就労している母親の割合は、就学前児童では10.6^{ポイント}、小学生では1.6^{ポイント}高くなっています。

問12 母親の就労状況（経年比較）



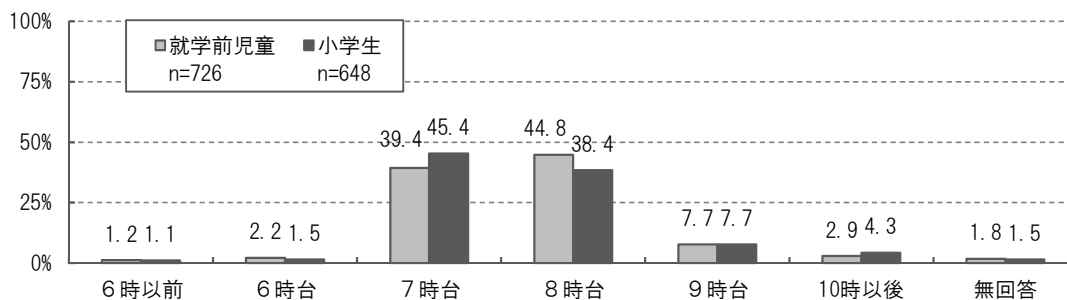
[問13] 母親の就労状況（経年比較）



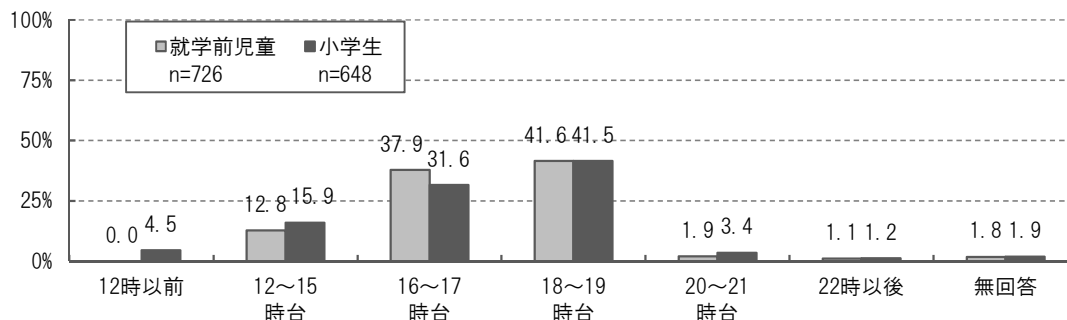
○母親の出勤時間は、就学前児童で「8時台」(44.8%)、小学生で「7時台」(45.4%)、
 帰宅時間は、就学前児童・小学生ともに「18~19時台」(41.6%・41.5%) が最も
 高くなっています。

○職場の所在地をみると、就学前児童・小学生ともに「小千谷市内」(67.5%・75.6%)
 が高くなっています。

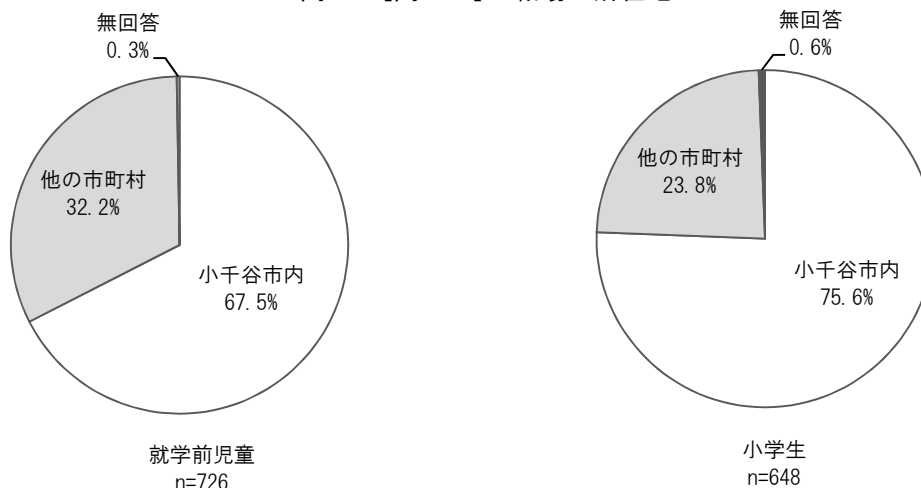
問12-1[問13-1] 母親の出勤時間



問12-1[問13-1] 母親の帰宅時間

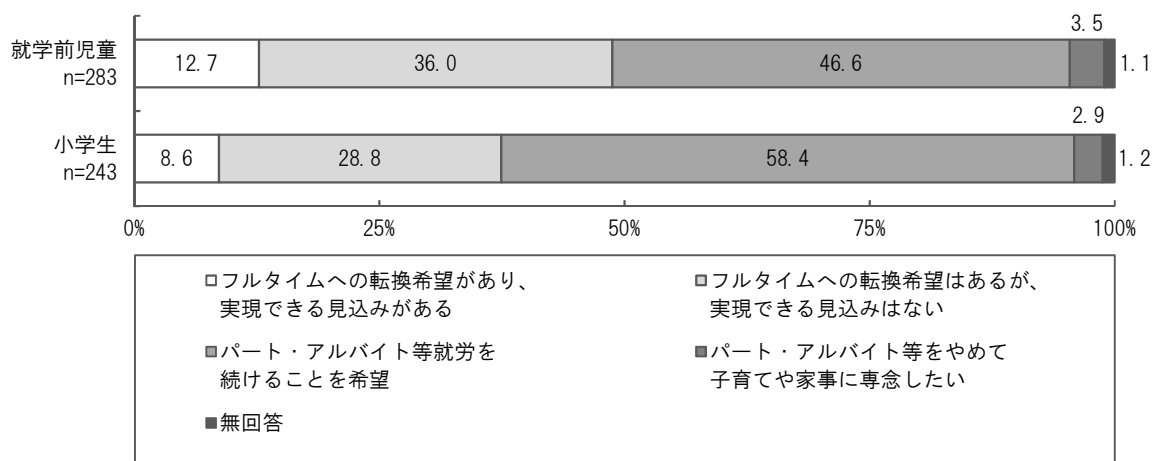


問12-2[問13-2] 職場の所在地



○「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」と「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」を合わせたパート・アルバイト等からフルタイムへの転換希望がある母親は、就学前児童で48.7%、小学生で37.4%となっています。

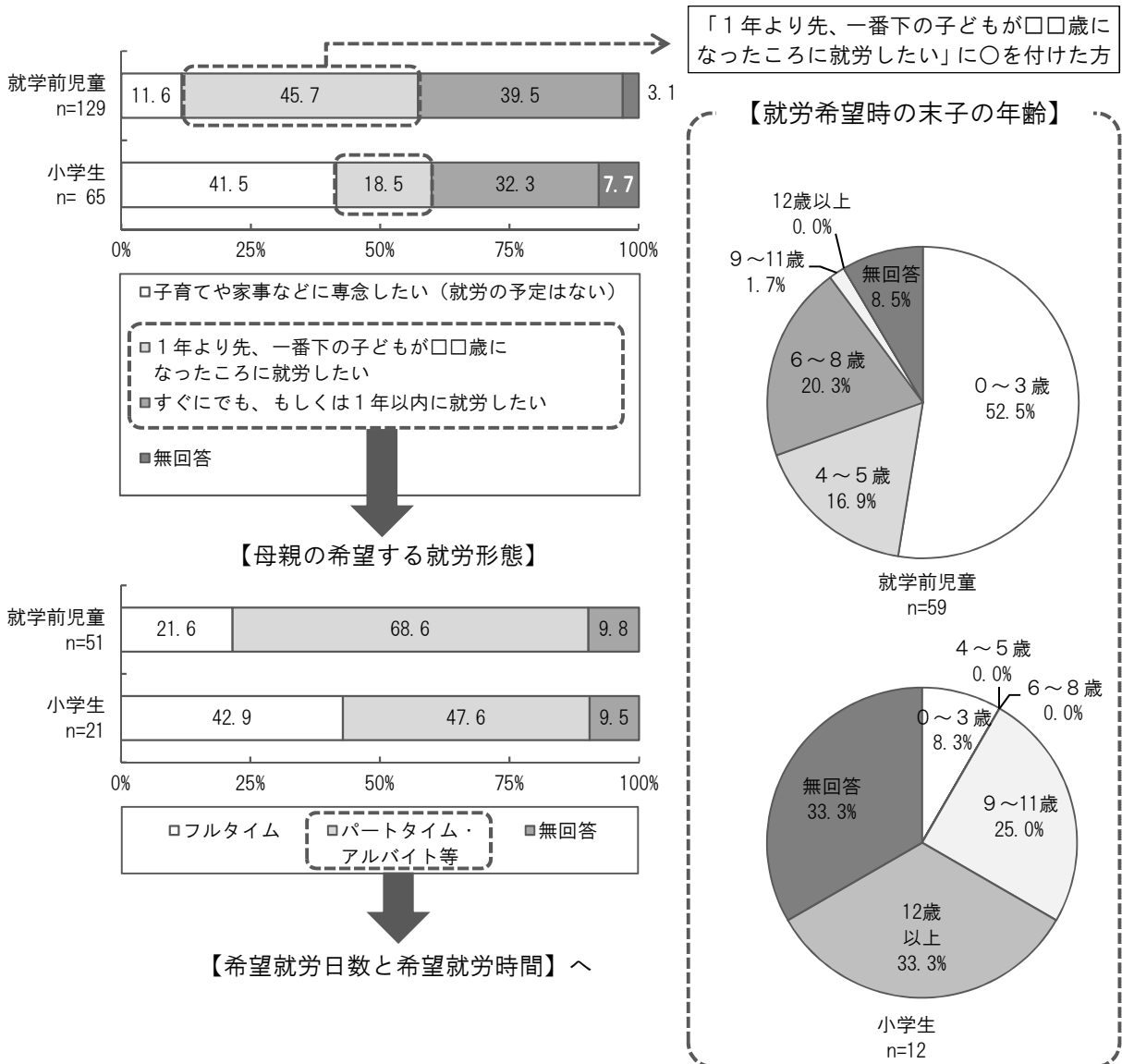
問12-3[問13-3] 母親のパート・アルバイト等からフルタイムへの転換意向



○現在就労していないが今後の就労希望がある就学前児童の母親は85.2%、その内訳は「1年より先、一番下の子どもが□□歳になったところに就労したい」が45.7%、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が39.5%となり、希望する就労形態は「パートタイム、アルバイト等」が68.6%となっています。就労を希望する時期の子どもの年齢としては「0～3歳」(52.5%)が最も高くなっています。

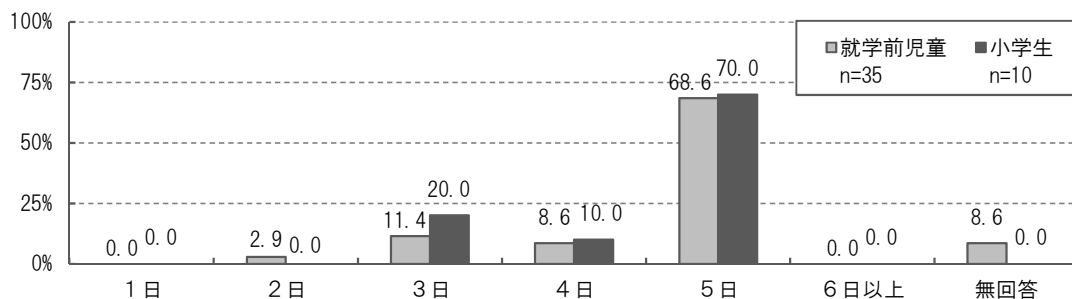
○就労希望がある小学生の母親は50.8%、その内訳は「1年より先、一番下の子どもが□□歳になったところに就労したい」が18.5%、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が32.3%となり、希望する就労形態は「パートタイム、アルバイト等」が47.6%となっています。就労を希望する時期の子どもの年齢としては「12歳以上」(33.3%)が最も高くなっています。

問12-4[問13-4] 就労していない母親の今後の就労意向

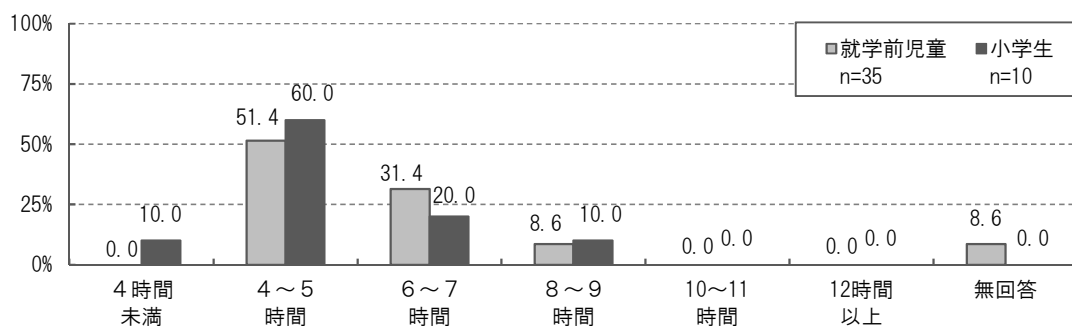


○パートタイム・アルバイト等での就労を希望する母親の希望就労日数は、就学前児童・小学生ともに「5日」(68.6%・70.0%)、希望就労時間は就学前児童・小学生ともに「4～5時間」(51.4%・60.0%)が最も高くなっています。

問12-4.3[問13-4.3] パートタイム・アルバイト等希望の母親の希望就労日数（1週当たり）

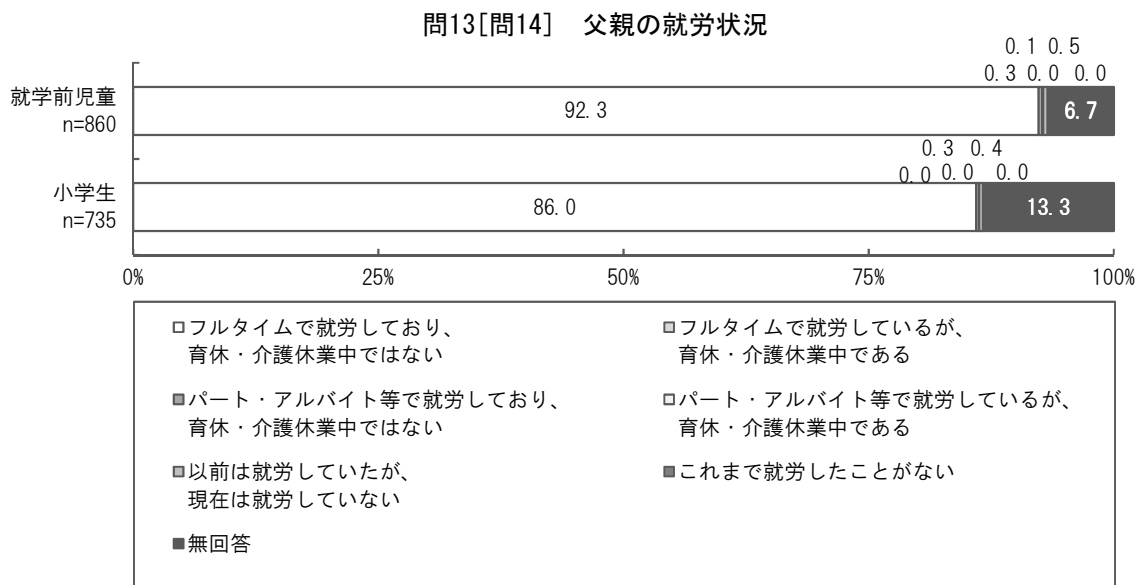


問12-4.3[問13-4.3] パートタイム・アルバイト等希望の母親の希望就労時間（1日当たり）



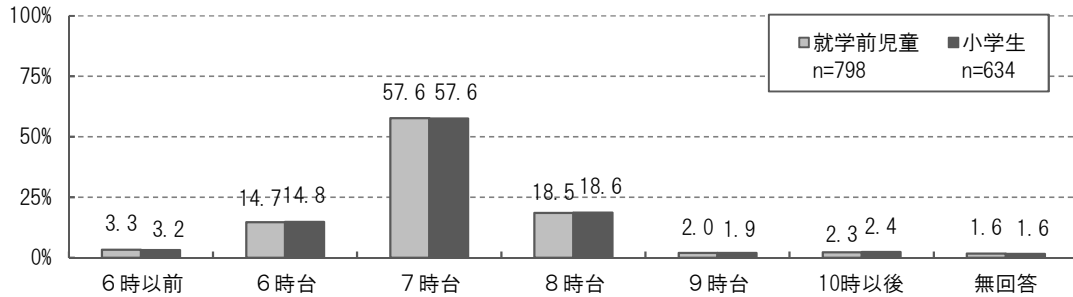
(2) 父親の就労状況

○父親の就労状況をみると、「フルタイムで就労している」「パート・アルバイト等で就労している」を合わせた割合は、就学前児童で92.7%、小学生で86.3%となっています。そのうち育休・介護休業を取得中の方は、就学前児童で0.3%、小学生の取得者はいませんでした。

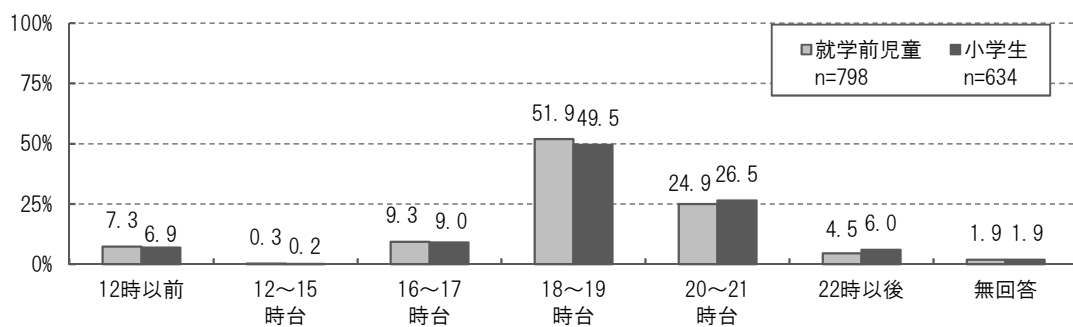


- 就学前児童・小学生ともに、父親の出勤時間は「7時台」(各57.6%)、帰宅時間は「18~19時台」(51.9%・49.5%)の割合が最も高くなっています。
- 職場の所在地をみると、就学前児童・小学生ともに「小千谷市内」(58.0%・58.2%)、が高くなっています。

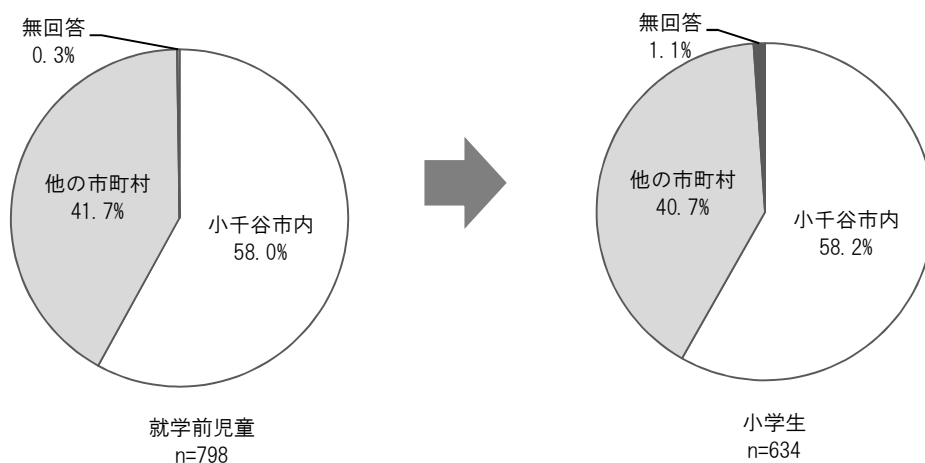
問13-1[問14-1] 父親の出勤時間



問13-1[問14-1] 父親の帰宅時間

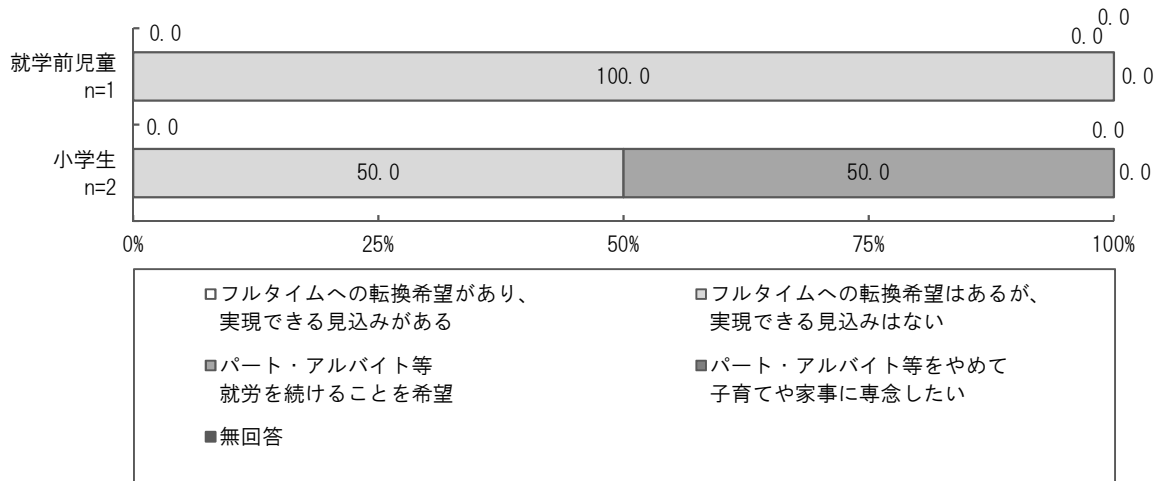


問13-2[問14-2] 職場の所在地



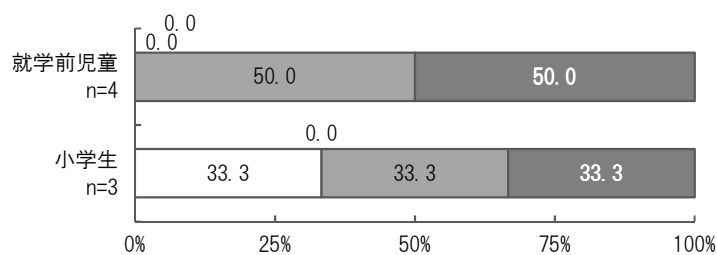
○父親のパート・アルバイト等からフルタイムへの転換希望は、以下のとおりです。

問13-3[問14-3] 父親のパート・アルバイト等からフルタイムへの転換希望

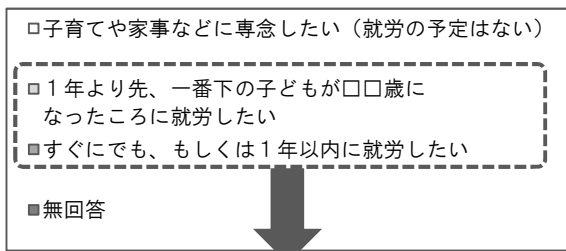


○現在就労していない父親の今後の就労希望は、以下のとおりです。

問13-4[問14-4] 就労していない父親の今後の就労意向



「1年より先、一番下の子どもが□□歳になったところに就労したい」に○を付けた方



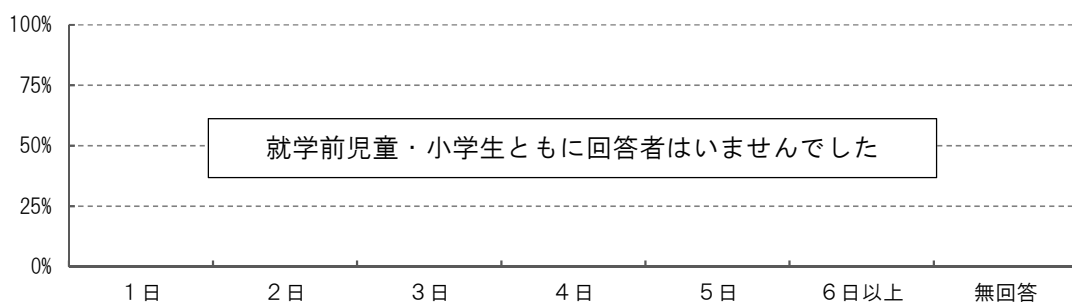
【就労希望時の末子の年齢】

就学前児童・小学生ともに回答者はいませんでした

【父親の希望する就労形態】



問13-4.3[問14-4.3] パートタイム・アルバイト等希望の父親の希望就労日数（1週当たり）



問13-4.3[問14-4.3] パートタイム・アルバイト等希望の父親の希望就労時間（1日当たり）

